



かどわきっ子

充実の11月

11月は、子どもたちだけでなく、われわれ教員も多くの研究会に参加し、授業の在り方や単元の組み方など研修しました。今後の学習活動に生かしていきたいと思えます。

子どもたちは、校外学習にも多く出かけたり、迎えたりしました。先週は、6年生と3年生、4年生が校外で学びを深めました。

3・4年生は、総合的な学習の時間で福祉について学習しており、今回は「あざみの里」に出かけ、入所されている方々との交流をする中で、高齢者の様子や気持ちを理解し、自分たちにできることを考える学びです。出し物やレクリエーションを喜んでももらえたらしく、「ニコニコやった!」と充実した笑顔で帰ってきました。翌週には、4年生だけで訪問し、施設やそこで働く人々についての理解を深めました。子どもたちに聞くと、お年寄りとの日常的な関わりはあまりない子もいます。学びの中で、「相手を思う、慮る」ということを感じ、考えてほしいと思えます。

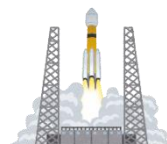


6年生は、市商工観光課支援事業「ふるさと発見ツアー」で、キリシタン記念館、原城跡、聖マリア観音の見学に出かけました。社会科の歴史の学習で学んでいることありますが、実際のものを見たり赴いたりすると、違った感動が得られます。大人になって故郷を離れたとき、「私の故郷の南島原市はね、……。」と話すことができるような学びを重ねていってほしいものです。

翌20日は、また6年生が、市商工会女性部・青年部主催の講演会に招待されました。講師は、ドラマ「下町ロケット」のモデルにもなった植松電機の代表取締役「植

松努」氏で、「思うは招く～夢があれば何でもできる～」と題して、これからの生き方について御教示いただきました。

話しぶりの上手さもあり、60分の講演はあっという間に終わりました。植松電機はこれまで380本以上のロケットを飛ばしているそうで、今では海外の研究者とも連携して事業を進めているそうです。その植松氏の話す言葉には説得力があり、たくさんのキーワードが出てきました。きっと子供たちそれぞれの心に、違った言葉が残ったのではないかと思います。



私は「生まれたときから諦め方を知っている人はいない」という言葉が心に残りました。こうも続けられました。「諦め方を教えているのは、周りの大人。どうせむりだよ、できっこないじゃん、そんな言葉が子どもたちの限界をつくり、自信と可能性を奪ってしまう。」

私たち大人は、「子どもには無限の可能性がある」といいながらも、無意識のうちに限界をつくってはいないでしょうか。

明日は、持久走大会です。子どもたちの頑張りを一緒に応援しましょう!

12月おもな行事

2日(月)	面談週間(～6日) 子ども夢劇場
3日(火)	人権集会
5日(木)	P.T.A役員会・評議員会
9日(月)	短縮授業(～13日)
11日(水)	市学力調査(1～6年)
12日(木)	全校朝会 市学力調査(1～3年)
19日(木)	全学年5校時授業
20日(金)	2年生親子レク
24日(火)	終業式、集団下校